

# Winter Festa 2012

## 学習スタートセミナー

### TACコース説明会

～速修・上級コースの受講方法を紹介～

TAC税理士講座 12/24(月)より本格開講！

※ 先行クラス 12/17(月)～

各コース初回講義を、無料で体験受講できます。

開講日に、各校受付へ直接お越しください（予約不要）。

※ コース開講日程につきましては、「通学パンフレット」をご覧ください。

TAC 税理士講座

# 目 次

ページ

|      |                  |     |
|------|------------------|-----|
| テーマ1 | 1月開講コースの概要 ..... | 1   |
| テーマ2 | 初学者対象コース .....   | 2～5 |
| テーマ3 | 受験経験者対象コース ..... | 6～9 |

## テーマ 1

# 1 月開講コースの概要

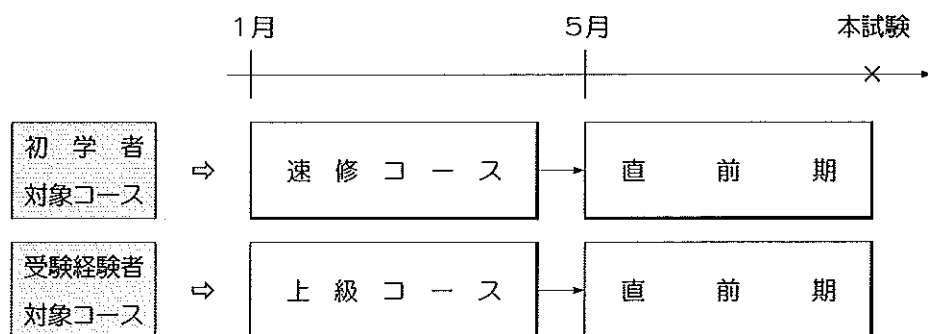
本日は、お忙しい中、コース説明会にお越しくださいましてありがとうございます。

当説明会は、1月から税理士試験の各科目の学習を開始される方に向けて、TACではどのような学習コースを設けているかを説明するものとなります。

初めて税理士試験を受験される方、受験経験のある方、それぞれの学習状況等に対応したコースを設定しています。当説明会を通じて、ご自身にとって最適なコースを見つけていただき、1月からの学習の良いスタートを切るのに少しでもお役に立てれば幸いです。

## ■ 1 月開講コースの概要

TACでは、受験生の皆さんの学習状況等に応じた1月からの学習コースを下記の通り設定しています。



## テーマ2 初学者対象コース

### ■ 速修コース

速修コースは、初めてその科目を学習される方を対象に、7カ月間という短期間で一気に基礎レベルから実践レベルまで一気にレベルアップさせる、ハイスピード型のコースです。

#### 1 開講科目及び講義回数

法人税法、所得税法 ⇨週3回

簿記論、財務諸表論、相続税法、消費税法(注) ⇨週2回

酒税法、固定資産税、事業税、住民税、国税徴収法 ⇨週1回

(注) 消費税法は、5月(直前期)から講義回数が週1回になります。

#### 2 カリキュラム

|         | 速 修 コ ー ス              | 直 前 期                       |
|---------|------------------------|-----------------------------|
|         | 1月～4月                  | 5月～本試験(直前期)                 |
| IN PUT  | 基本項目インプット<br>応用項目インプット | 総まとめ<br>試験委員・税制改正対策<br>合格情報 |
| OUT PUT | ミニテスト<br>実力テスト         | 実力完成答練<br>直前予想答練<br>全国公開模試  |

#### 3 コースの特徴

- (1) 1月からの4カ月間で、本試験での出題頻度を分析し、重要度に応じたメリハリのある講義を展開します。これにより合格に必要な知識を短期間で習得できます。
- (2) 5月からの直前期で、本試験レベルの問題演習(答練)を重ねることで、4月までにインプットした知識を実践力に直結させていきます。

#### 4 このような方にオススメ

- (1) その科目を初めて学習される方で短期集中学習が得意な方
- (2) 合格発表後、1科目追加して学習されたい方
- (3) 受験経験はあるが、基礎からしっかり復習したい方



## 学習上のアドバイス

### 1 講義を受けたらすぐ復習

学習内容を確実に身につけるには、講義を受けたすぐ後に復習するのが大変効果的です。

「エビングハウスの忘却曲線」によれば、私たち人間の記憶は、1時間後には56%、1日後には74%を忘却してしまうそうです。一方で、早めに復習すると、その内容の印象が強く残り、忘却曲線も緩やかになります。まさに「鉄は熱いうちに打て！」です。

短時間で結構です。講義終了後、移動時間等を使ってその日学習した内容をテキスト等で確認するようにしましょう。

### 2 計算の問題演習を毎日行う

毎回の学習内容は、テキストをしっかりと読み、講義を聞けば必ず理解できますが、それだけでは試験に合格できません。なぜならば税理士試験は筆記試験であり、頭にある知識を答案用紙に反映しなければならないからです。

したがって、「理解した」レベルから「問題が解ける」レベルにその知識を引き上げる作業が必要になります。それが問題演習です。

特に計算の知識の定着には、コンスタントに問題演習するのが大変効果的です。1時間だけの日があってもかまいません。毎日やりましょう。

### 3 理論は細切れの時間を利用

これも合格者の体験談ですが、「細切れの時間を有効利用した。」という事をよく耳にします。中でも移動時間はその代表例です。理論は暗記が学習の中心になりますので、暗記用の教材を常に携帯していれば、いつでもどこでも学習することができます。

また、『昼休み時間』もある程度まとまった学習時間として利用できます。これも時間が制約されている分、かえって集中して学習できます。

### 4 アウトプット強化ゼミの活用

簿記論・財務諸表論については、速修生に不足しがちな演習力を補強するため、問題解決のためのノウハウを提供する「アウトプット強化ゼミ」を実施します。これにより、直前期に入る前から講義で身につけた知識を得点に変える力（実践力）を養うことができます。

なお、当講座はWebでも配信します。当講座を受講し、得点力アップを図りましょう。

#### 5 速修コースのカリキュラムは受験経験者にも対応

速修コースは、受験経験者で基礎固めからしっかりやりたい方にも対応したカリキュラムとなっています。8月受験後にその科目の学習をされておらず、知識に不安がある方は、速修コースで効率よく基礎力から再構築してください。



### 注 目 カリキュラムをリニューアル！消費税法・速修コース

消費税法・速修コースが、本試験の出題傾向を鑑みて、今年度より週1回のカリキュラムから週2回のカリキュラムに変更することになりました。これにより、消費税法・速修コースが次のようにパワーアップします。

- 1 講義回数の増加に伴い、レギュラーコースと同じ学習範囲をカバーするとともに、ゆとりを持ったペースで講義を展開するため、インプットがスムーズに行える。
- 2 講義回数の増加に伴い、レギュラーコースと同じ量のアウトプットを行うことができ、早い時期から合格答案作成能力を養成できる。
- 3 上記1・2により「直前期」をスムーズに迎えることができ、本試験に向けて効果的な学習を行うことができる。

(注)5月(直前期)からは、講義回数が週1回になります。

新しくなった消費税法・速修コースで効果的に学習し、合格をより確かなものにして下さい。



## 参 考 オプション講座のご紹介

### 1 簿記入門コース

税理士試験の会計科目（簿記論・財務諸表論）を学習するにあたり、日商簿記検定2級（商業簿記）程度の知識が必要になりますが、この知識は簿記入門コースで得ることができます。

簿記は全くの初心者という方は簿記入門Ⅰ（全8回）より、日商簿記検定3級レベルの知識をお持ちの方は簿記入門Ⅱ（全8回）より受講しましょう。なお、「簿記の勉強をしたのがかなり昔なので不安だ」という方は、簿記入門Ⅰから受講することをお勧めします。

簿 記 初 心 者 の 方

簿 記 3 級 レベル の 方

簿 記 入 門 Ⅰ

⇒

簿 記 入 門 Ⅱ

⇒

税 理 士 会 計 科 目

### 2 簿記論先取り学習講座

1月開講コースの簿記論を申し込まれた方は、「簿記論先取り学習講座」をビデオ(DVD)講座・Web通信講座にて無料で受講できます。

当講座(全4回)では、日商簿記検定2級レベルの方を対象として簿記論で出題される未学習論点の先取り学習を行います。開講までの時間を有効活用すべく当講座を受講し、スタートダッシュを決めましょう！

#### 学 習 論 点

①特殊商品売買

②税金

③社債

④有価証券

⑤人件費

## テーマ 3 受験経験者対象コース

### ■ 上級コース

上級コースは、税理士試験の受験経験者を対象に、1月から既に習得されている知識の確認・整理を行いながら、本試験へ向けて実践力を養っていくコースです。

#### 1 開講科目及び講義回数

簿記論、財務諸表論、法人税法、所得税法、相続税法 ⇨週2回

酒税法、消費税法、固定資産税、事業税、住民税、国税徴収法 ⇨週1回

#### 2 カリキュラム

|         | 上 級 コ ー ス          |                             |
|---------|--------------------|-----------------------------|
|         | 1月～4月              | 5月～本試験（直前期）                 |
| IN PUT  | 基本項目再確認<br>応用項目再確認 | 総まとめ<br>試験委員・税制改正対策<br>合格情報 |
| OUT PUT | 上級演習               | 実力完成答練<br>直前予想答練<br>全国公開模試  |

#### 3 コースの特徴

- (1) 上級コースは、講義と演習を交互に繰り返すカリキュラムとなっています。これにより、知識の定着とアウトプット能力を同時に強化することができます。
- (2) 講義回では、既学習項目について効率的に論点整理を行いつつ、未学習論点等の+αについてのインプットも行います。

また、時間が許す限り、演習教材（トレーニング）を通じて本試験レベルの個別問題演習を行い、応用問題への対応力も養成します。

- (3) 演習回では、本試験を想定した問題演習（上級演習）を実施し、その解説で出題意図の読み取り方法や効率的な解法の説明を受けることで、実践的な合格答案の作成テクニックを早い時期から身に付けることができます。

## 4 このような方にオススメ

- (1) 合格発表後に再チャレンジされる方
- (2) 簿記論に関しては、日商簿記検定1級を受験された方（日商1級では税理士・簿記論の学習範囲の約9割を網羅しているため）



## 学習上のアドバイス

### 1 予習をしてから講義を受講する

受験経験者といえども、以前学習した内容を思い出すのには、かなり時間がかかります。

したがって、上級コースで学習するにあたり、講義を受ける前にその回の学習内容を予習しておく、講義での学習内容の理解やトレーニング演習がスムーズに行えたとともに、繰り返し効果が発揮され、知識がより定着しやすくなります。

テキストを一読するだけでもかすいぶん違います。もし余力があるようでしたら、トレーニングの「基礎」問題だけ解いてから受講しましょう。効果のほどは保証します。是非、実践してください。

### 2 苦手論点を克服しよう

本試験では、基本事項の正答率が合否を分けることになりますので、苦手論点があると合格は難しくなります。

苦手論点がある方は、必ずそれを克服しましょう。特に、本試験において出題頻度の高い論点で苦手なものがある場合には、優先してつぶして下さい。

### 3 上級演習では常に「本試験」を意識して解答しよう

練習試合等の実践練習をしなければ、公式戦で良い結果は得られないのと同じで、本試験を合格するためには、本試験を想定した実践的な問題（上級演習）を繰り返し演習することが必要です。

一方、本試験で合格点をとるためには、試験時間（2時間）をいかに有効活用するかが最大のポイントになります。「各問(理論と計算)の時間配分」「総合問題での着手する資料の優先順位付け」等、個々の処理能力だけではなく、+αの要素を身に付けなければなりません。

これらの答案作成する上での実践力は、上級演習の問題を解答する際、常に意識することで初めて習得できます。上級演習は、解き直しの時も含めて、常に本試験と同じ感覚で真摯に取り組みましょう。

また、上級演習では、間違えた箇所の原因追求をしっかり行い、本試験に向けての「課題」を見つけるように心がけて下さい。



## 注 目 カリキュラムを大幅改訂！簿記論・上級コース

近年の簿記論の本試験では、幅広い会計知識・思考を問う傾向があるため、今年度より上級コースのカリキュラムを下記の通り変更しました。

|          | 従 来               | 今 年 度 の カ リ キ ュ ラ ム                             |
|----------|-------------------|-------------------------------------------------|
| 奇数回（講義回） | 講義                | 講義(個別論点※)                                       |
| 偶数回（演習回） | 上級演習<br>(90～120分) | 3月上旬まで：上級演習(60分)＋講義(構造論点※)<br>3月中旬から：上級演習(120分) |

※ 個別論点とは、現金預金・商品売買・有形固定資産等を指します。

構造論点とは、製造業会計・本支店会計・連結会計等を指します。

このように従来よりも講義の時間を増加させることで、幅広い知識の習得と理解を得ることができます。また、多くの受験生が苦手な本支店会計や連結会計等の構造論点について早い時点から学習を開始しますので、知識も定着しやすくなりますし、従来よりも多くの問題演習を行うことができるようになります。

新しくなった簿記論・上級コースで、合格を確実なものにしましょう。



## 参 考 コース選択について

### 1 受験経験者のコース選択

受験経験がある方で1月からの学習を上級コースにするか、それとも速修コースにするか迷われている方は、本試験前の成績や本試験の出来具合を参考にしてみましょう。

実力テストや各種答練で平均点以上をコンスタントに得点されていた方は、上級コースが適切といえます。一方、平均点に届かなかった方は、基本事項の習得が不十分といえますので、速修コースでじっくり基礎から再構築する方が望ましいといえます。

### 2 日商簿記検定1級受験経験者のコース選択

1月からの簿記論の学習をお考えの日商簿記1級受験経験者は、Web配信している「簿記論アプローチセミナー」を受講されることをお勧めします。

当セミナーでは、日商簿記検定1級受験経験者向けに、そのアドバンテージを活かした簿記論の学習方法を説明しています。また、1月からの学習を上級コースにするか、それとも速修コースにするかの判断材料として、「受講コース判定テスト」もご用意しています。

これらを利用して最適なコース選択を行ってください。

## 最 後 に

本日は、お忙しい中、当説明会にご参加いただき、ありがとうございました。

TAC税理士講座一同、皆さんの合格を全面的にサポートします。2013年の税理士試験合格を目指して、一緒にがんばりましょう。